される（ヒミズ 8 頭で 464 疋）。今日までの成績から、キタサト、フジ、コウチ、クロシオ、ガーリエピアなどは、全県下に普通に分布しており、県南部では、ミタムラ、ミヤジマ、ダイセン、イカオタマなどが見出される。なお、松山市内の城山地区では、目下、季節的出現状況を検索中であり、さらに、県下全般にわたって、詳細な調査も続行中である。疫学的に注意する必要がある種類としては、わずかにフトゲだけであるが、それも、松山市内からだけ（1956 年 12 月—1957 年 3 月の成績）見出されているにすぎない。（徳島大・医・病理）

鹿児島地方の恙虫、特にドロイシヤオカベ種について：

北原経太・八板宗哉 Kitahara, K. & Yaita, M.: *Tsutsugamushi in Kagoshima District, especially on D. okabei*

1955 年 3 月より 1956 年 11 月まで鹿児島市内城山麓岩崎谷で毎月調査を行い、琉球ネズミ 26 頭、イエネズミ 5 頭、ドブネズミ 11 頭を捕獲し琉球ネズミ 17 頭にドロイシヤオカベ 62 匹の寄生をみた。季節的には 3 月頃より 10 月頃まで発生し 7 月頃が最高となる様である。宿主は琉球ネズミ以外からは全然認めていない。1956 年 8 月、11 月の 2 回に亘り大島郡与論島に渡りドブネズミ 32 頭、琉球ネズミ 75 頭、ヤマバト 2 羽について検べ琉球ネズミ 7 頭にドロイシヤオカベ 10 匹の寄生をみた。ただ他の種の恙虫は全然認められなかった。非常に僅かな標本であつたが与論島の 10 匹鹿児島島の 62 匹より無作為にとり出した 10 匹の標本に基き気候的に、又、地質的に何等かの変異がみられるのではないかとこの予想のもとに比較を試みたところ AW, PW, PI, S, は極めて高度の危険率で有意の差を認めた。（0.1 % 以下），SB, dsa, （1 % 以下），胴背毛総数，第Ⅱ，Ⅲ列毛数，（2 % 以下）であつた。（鹿大・医・公衆衛生）

日本産恙虫の分布に関するその後の知見：田宮猛雄・加納六郎・熊田信夫・金子清俊・久郷準・森川達二 Tamiya, T., Kano, R., Kumada, N., Kaneko, K., Kugoh, T. & Morikawa, T.: Recent knowledge on the geographical distribution of trombiculid mites in Japan

1954 年末に新たに地方性リケッチア症研究班が結成され、日本及び周辺の諸島を対象として、主として恙虫病群リケッチア症に関する疫学、媒介動物、及び病原体等

の各分野よりの総合的調査研究が行われて来た。本研究の開始以来約 1 ケ年間の記録の中、各種野生動物（殊に野鼠）及び之等を宿主とする恙虫の地理的分布、宿主嗜好性、季節的消長、及び分類形態等に関する中間報告を、本学会第 8 回大会（於東大、伝研、1956 年 4 月）ツツガムシ シンポジウムに於て行つたが、その後も引続き各種の調査を実施中であり、1956 年末迄 2 年余りの期間に得られた結果を取纏めて報告する。調査地域は、北海道、本州、四国、九州、及び 2, 3 の周辺諸島に亘り、多数の資料が集積されているが、一部の地域を除いては季節的消長に関する十分な知見を得るに至っていない。

（東京都下大島、神奈川県三浦半島、静岡県伊豆半島、新潟県長岡市の 4 地区に於て行われた季節的消長に関する調査結果は、別に詳報する予定である）。資料として取扱つた恙虫幼虫は、3 亜科 7 属 46 種合計 106,542 疋に及び、又之等恙虫幼虫の宿主としては、各種獣類 14 属 18 種 2,755 頭及び鳥類 18 種 69 羽、合計 2,824 個体が算せられる。宿主動物及び恙虫の地理的分布、季節的消長、種属特異性、及び疫学的考察等に関する詳細な報告は、本研究完結に際して取纏め詳細に報告の予定であるが、地理的分布に関する 2, 3 の知見を記して記録に留め度い。
T. (L.) pallida: 北海道南部のエゾヤチネズミ、ヒメヤチネズミより（1956 年 6 月）。*T. (L.) orientalis*: 長崎県対馬産のツシマアカネズミより（1956 年 8 月）。*T. (L.) sp. # 50*: 秋田県北部産のハタネズミより（1955 年 8 月）。*T. (L.) yasukai*: 鳥取県大山寺産のコウベモグラより（1956 年 10 月）。*G. (W.) ogatai*: 鳥取県大山寺産のコウベモグラより（1956 年 10 月）。*T. (L.) murotoensis*: 愛知県中央部産のアカネズミ、ハタネズミより（1956 年 3 月）。*T. (M.) kochiensis*: 愛知県中央部産のアカネズミより（1956 年 3 月）。（東京医歯大・医動物）

ナガヨツツガムシ群の種とその変異について：佐々学・

飯室勇 Sasa, M. & Iimuro, I.: Studies on the variations in the autumnalis-group of the subgenus *Neotrombicula* of the Japanese trombiculid mites

ナガヨツツガムシ *Trombicula nagayoi* は *Neotrombicula* 亜属の *autumnalis* 群に属し、この群には日本で *T. japonica*, *T. ichikawai* の 2 種がこのほかに記録されている。このうち、あとの 2 種の幼虫はその形態に変異が乏しいが、*nagayoi* は東本州から北海道にかけて集められた標本に胴背毛式や背甲板の大きさの変異がみられ、とくに基産地の山中のものなどに胴背毛式だけから